安 全 の 手 引 き

2022 年 2 月

在クロアチア日本国大使館

目　次

Ⅰ　はじめに・・・

Ⅰ　はじめに

クロアチアはヨーロッパでも比較的治安が良いと言われていますが、いまだに過去の紛争で使用された武器、兵器などが一般市民の間に出回っているため、これらを使用した犯罪が散発しています。また、観光地では、スリが暗躍しており、多くの日本人が盗難被害に遭っています。

在クロアチア日本国大使館では、皆様が安全に旅行、生活できるよう緊急時への対応を含めたマニュアルを作成しました。皆様がこの手引きを活用され、クロアチアで安全にお過ごしいただければ幸いです。

Ⅱ　防犯の手引き

1　防犯の基本的心構え

(1) 安全について

海外で生活するにあたっては、「自分と家族の安全は自分たちで守る」、「予防が最良の危機管理である」という心構えを持ち、行動にあたっては、安全のための三原則を守ることが、危険を避けることに役立ちます。

安全のための三原則とは、「目立たない」、「行動を予知されない」、「用心を怠らない」を指します。各家庭（企業）においては、日頃から自らの身を守るための防犯対策に努め、また、病気、トラブル等への対応策を考えておく必要があります。

(2) 在留届と「たびレジ」

ア　在留届

旅券法により、外国に住所または居所を定めて 3 か月以上滞在する日本人は、その住所または居所を管轄する日本の大使館または総領事館に「在留届」を提出するよう義務付けられています。

在クロアチア日本国大使館では、事件・事故や思わぬ災害が発生した場合、在留届をもとに安否確認を行いますので、必ず在留届を提出してください。在留届は、外務省が提供する電子届出システム「オンライン在留届（ORR ネット）」、在クロアチア大使館窓口での直接提出のほか、FAX や郵送でも提出することができます。

イ　「たびレジ」

在留届の提出義務のない 3 か月未満の短期渡航者の方（海外旅行者・出張者等）は、「たびレジ」への登録をお願いします。「たびレジ」は、滞在先の最新の安全情報等を日本語のメールで受け取れる外務省のサービスです。登録していただいた情報は、クロアチアで事件や事故、自然災害等が発生した際に、在クロアチア大使館が安否確認を行う際にも利用されます。安全情報の受け取り先として、家族・同僚等のメールアドレスも追加登録

できますので、併せてご活用ください。

ウ　インターネットからの登録方法

在留届および「たびレジ」は、下記のリンク（ORR ネット）から登録できます。

https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html

(3) 情報の収集

普段から新聞・テレビ・ラジオ・インターネット等を通じて安全に関する情報に留意しておくことが望ましく、クロアチア国内のみならず、隣国を含めた国際情勢に関心を持つことが大切です。また、外務省では感染症情報を含めた世界各国・地域の安全情報について、「外務省海外安全ホームページ（http://www.anzen.mofa.go.jp/）」にて発信しています。

電話・インターネット等をはじめとする他の情報通信手段が利用不可能となるような緊急事態が発生した場合には、短波による NHK のラジオ国際放送「NHK ワールド・ラジオ日本」のニュースや「海外安全情報」も有益です。特に「海外安全情報」には外務省や在外公館などからも積極的に情報提供を行っています。海外への渡航に際しては、短波放送の受信が可能なラジオを準備、持参するようお勧めいたします。

「NHK ワールド・ラジオ日本」短波放送の放送時間帯や周波数等

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/radio/howto/

「海外安全情報」（インターネットでも最新情報を聴くことができます）

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/anzen/

2　クロアチアにおける犯罪発生状況

クロアチア内務省の発表によれば、2021 年 1 月から 11 月までの犯罪発生件数（交通関係の犯罪を除く）は、前年同時期に比べ約 2.7%増加しています。

クロアチアでは、1990 年代の紛争において使用された銃器がいまだに一般市民に出回っており、商店や金融機関などに対してこれら武器を使用した強盗事件が発生しています。こうした中、2020 年 10 月にはザグレブ市内の観光名所である聖マルコ広場において、同広場に面する首相府や議会議事堂の警備にあたっていた警察官に対する銃撃事件が発生しており、一般市民の武器へのアクセスが容易であることがうかがえます。

日本人が被害に遭う主な犯罪は、観光地におけるスリや置引き等といった窃盗犯です。

また、サッカーの国際大会や国内リーグのライバルチーム間の試合等、大規模なスポーツイベントが開催される際には、会場周辺や近隣のカフェバー等において、一部の過激なサポーターが、けんか、騒乱、器物損壊といったトラブ

ルを引き起こすこともあります。

3　防犯のための具体的注意事項（資料 1「緊急時のクロアチア語」もご参照ください）

(1) 住居に関する注意事項

ア　住居の選択

住居を選択する際の検討事項は多岐にわたりますが、特に、以下の点については必ず検討することをおすすめします。

（ア）住居の所在地と周辺の治安環境

（イ）警察・消防・病院・スーパー等の場所およびそこまでの距離

（ウ）住居から職場、学校、スーパー等に至るルートの安全性

（エ）住宅の耐震性等

（オ）家主および住宅仲介業者の信頼性

住居への侵入を防ぐとの意味では、集合住宅（3 階以上の部屋）の方が独立家屋よりは防御性が一般的に高く、隣人の援助が得られやすいという利点もありますが、消防救助活動が困難な高さの住居は避けるべきです。また、最上階の場合は、屋根や屋上からの侵入にも注意が必要です。

イ　具体的注意事項

一戸建ての場合には、不在がちの世帯が多い地域が狙われますので、両隣の家がどんな家庭かを知っておくことも重要で、併せて、カメラ、センサーなどのセキュリティシステムを設置することが望まれます。

集合住宅では、一般的に設置されている建物入口のセキュリティシステムに加え、各戸入口扉の強度、鍵の個数、警備機器設置の有無等を確認する必要があります。また、外部から見て、窓の強度、鉄格子の有無、ベランダの有無、隣室との境界を確認し、侵入されにくい部屋を選ぶことが大切です。

(2) 外出時の注意事項

ア　スリ、置引き等

ザグレブをはじめ、ドブロブニクやスプリット等の観光地では、個人のスリのほか、組織的な窃盗グループが、世界中から訪れる観光客をターゲットにしており、これまでに多くの日本人も被害に遭っています。主な手口として、背負っているリュックサック等のファスナーを開けたり、トラムやバスの車内において、被害者の注意を引きつける役と貴重品を盗む役に分かれて犯行に及ぶケースがあります。また、スリの中には、周囲に人がいない場所であっても犯行に及ぶ者もいます。これら犯罪者から狙われないためには、服装、所持品などから高額な現金、貴重品を持っていると

思わせないこと、また、常に周囲に気を配り、隙を見せないことが重要です。

具体的には、飲食店や商店を利用した際には、会計後しっかりと財布をしまってから店を出る、貴重品は分散して所持する、人混みの中ではカバンを体の前で抱える、ファスナー部分に手を当てる、などの対策を心がけてください。また、周囲を見回したり、後ろを振り返ったりして、警戒していることを示すことも必要です。

レストランやカフェでは、隣のイスに鞄を置いてすぐに、一瞬の隙をつかれて盗まれたケースもあります。

イ　その他の注意事項

前述のとおり、スポーツイベントが開催される際に、会場周辺やカフェバー等において、一部の過激なサポーターらがけんか、騒乱、器物損壊といったトラブルを引き起こすこともあります。思わぬトラブルに巻き込まれぬよう、十分注意してください。

また、人気のないところ・暗いところ・夜間の外出等を避ける、多額の現金を持ち歩かない、貴重品等は分散して身につける、といった一般的な対策についても、改めて確認しておきましょう。

(3) 生活上の注意事項

ア　近隣者との関係

近隣者とは良好な関係を作り、見慣れない者には声をかけるなど、お互いに協力し合って防犯対策を行うことが重要です。

イ　訪問者等

銀行員、郵便局員、保険会社の社員であると偽って住宅への侵入を試みる犯罪者もいますので、来訪者への対応は、まずインターフォンで用件を確認し、不審に感じたらその場で断り、安易に入室させないよう心がける必要があります。

ウ　長期不在時

旅行等で長期不在にする場合には、信頼できる隣人、家主や同僚がいれば、不在中の巡回や郵便物の保管を依頼したり、可能であれば、警備会社と契約し、侵入警報装置を設置することも効果的です。

エ　家族の安全対策

普段から、居住地域の治安、来訪者への対応方法、緊急時の対応・連絡方法等を家族で共有するとともに、それぞれの行動予定・居場所について常に把握しておきます。不測の事態が起きたときには、連絡を取り合えるように方法を決めておくとともに、予定に変更が生じた際には必ず連絡することも大切です。

また、子どもが外で遊ぶときには、親は必ずそばにいて、目を離さないようにしてください。

オ　緊急時の連絡体制等の整備

不測の事態において冷静に行動するためには、事件や事故に巻き込まれた場合に、誰に連絡し、誰がどのようにサポートするのかについて、普段から会社、学校や家庭において、また、個人で滞在中の方は仲の良い友人等と話し合い、緊急時の連絡体制を整えておくことも有効です。

4　交通事情と事故対策

(1) クロアチアの交通事情

どの国においても、マナーの悪いドライバーは存在します。クロアチアでも、強引な割り込みや車線変更、方向指示器を出さずに右左折、直進レーンから右左折等をするドライバーもいるので、運転には細心の注意を払ってください。

また、横断歩道に注意を払わず、減速しないドライバーも多いので、歩行時にも注意が必要です。なお、クロアチアの横断歩道の信号機は、日本の信号機のように「横断」から「停止」に変わる際に点滅して歩行者に注意喚起することなく、いきなり「停止」に変わるので、併せて注意してください.

(2) 交通事故発生時の対応

人身事故の場合は、救急車を呼ぶなどして負傷者の救護にあたるとともに、警察に通報し、現場に留まります。

軽微な物損事故の場合、クロアチア内務省のウェブサイトによれば、他の交通を滞留させないように事故車両を移動させ、当事者双方がヨーロッパ共通の事故報告書に必要事項を記入し、連絡先を交換するよう案内されていますが、警察と保険会社にも通報し、指示を仰ぐことをお勧めします。なお、クロアチアを含む EU では、共通の緊急電話番号 112 番で、警察、消防、救急に通報することができます。

5　テロ・誘拐対策

(1) クロアチアのテロ・誘拐情勢

外務省海外安全ホームページをご覧ください。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_188.html

(2) テロ対策

テロに巻き込まれない予防策としては、一般的には次のような注意が必要です。

・　テロの標的となりやすい場所（軍・警察施設、政府関連施設等）には、

必要がない限り近づかない。

・　不穏な動き（不審者、不審物）を察知したら、直ちにその場を離れる。

・　直接の標的とならないよう、目立つ服装や行動を避ける。

・　常に、現在いる場所の非常口や待避ルートを意識する。

万が一テロや襲撃に巻き込まれてしまったら、命を守ることを最優先に行動してください。大切な点は次のとおりです。

・　爆発音・銃声を聞いたらその場に「伏せる」。周囲の状況を確認し、「逃げる」のか「隠れる」のかを判断する。

・　現場に居合わせた場合は、可能であれば、低い姿勢を保ちつつ、安全なところに待避する。

・　建物の下敷きになった場合は、体力の温存を心がけ、（テロリスト等が近くにいないと判断できれば）パイプなど、近くにある物をたたいて居場所を伝える。

(3) 誘拐対策

これまで、クロアチアにおいて日本人に対する誘拐事件は発生していませんが、被害を予防するには、通勤の時間・ルートをワン・パターン化することを避け、できるだけランダムにすることで「行動を予知されない」（安全のための三原則）を心がけることが重要です。また、子どもの通学、日常の買物等についても、同様の注意を払うことが大切です。

万が一誘拐犯に襲撃された場合には、次の点に留意してください。

ア　犯人から危害を加えられないために、抵抗せず、指示に従う。

イ　健康を維持するため、体を動かし、食事をとり、十分な睡眠を取ることを心がける。

ウ　助けが来ることを信じ、気持ちを強く持つ。自ら自ら犯人と交渉することは避け、解放に向けた努力がされていることを信じて待つ。

6　自然災害

2020 年 3 月 22 日、首都ザグレブにおいて、約 140 年ぶりの規模となるマグニチュード 5.5 の地震が発生しました。さらに、同年 12 月 29 日には、国内中部のシサク・モスラビナ県において、このザグレブ地震の規模を上回るマグニチュード 6.4 の地震が発生しました。

地震発生に際しては、まず、頭部を守り、避難経路を確保し、揺れが収まりましたら、火の元を確認し、余震・本震に備えてください。屋外へ避難する場合は、周囲の建物からの落下物に十分気を付けてください。

また、電気やガス、水道などのライフラインが止まった場合に備え、普段から飲料水や保存できる食料等を備蓄しておきましょう。さらに、非常時に持ち

出すべきものをあらかじめリュックサック等に詰めておくことも重要です（資料 2「緊急事態に備えてのチェックリスト」もご参照ください）。

7　連絡先

（1）在クロアチア日本国大使館　Boskoviceva 2, 10000 Zagreb

窓口時間　平日 8:30～12:00、13:00～17:00

電話　　01-4870-650

FAX　　01-4667-334

※　夜間及び休日は、緊急電話に転送されます。

ホームページ　http://www.hr.emb-japan.go.jp/

（2）警察・救急・消防

112（共通）

（3）警察署（主に各都市の中心部を管轄）

・ザグレブ第一警察署

所在地　Trg J.J. Strossmayera 3　　電話　01-4563-520

・オシエク第一警察署

所在地　Trg Lavoslava Ruzicke 1　　電話　031-237-257

・リエカ第一警察署

所在地　Dure Sporera 4　　電話　051-335-234

・プーラ第一警察署

所在地　Trg Republike 1　　電話　052-532-629

・ザダル第一警察署

所在地　Zore Dalmatinske 1　　電話　023-345-141

・シベニク第一警察署

所在地　Stjepana Radica 79　　電話　022-347-109

・スプリット第一警察署

所在地　Trg Hrvatske Bratske Zajednica 9　電話　021-504-510

・ドブロブニク第一警察署

所在地　Dr. Ante Starcevica 13　　電話　020-443-777

（4）救急病院（24 時間）

・ザグレブ：Clinical Hospital Center Zagreb “Sister of Mercy”
Department of Traumatology

所在地　Draskoviceva 19　　電話　01-4697-000

・ザグレブ：Clinical Hospital Centere Zagreb

所在地　Kispaticeva 12　　電話　01-2388-888

・ザグレブ：Clinical Hospital Center Zagreb “Sister of Mercy”

所在地　Vinogradska Cesta 29　　電話　01-3787-111

・ザグレブ：Clinical Hospital Dubrava

所在地　Avenija Gojka Suska 6　　電話　01-2902-444

・ザグレブ：Clinical Hospital “Holy Spirit”

所在地　Sveti Duh 64　　電話　01-3712-111

・ザグレブ：Clinical Hospital Center Zagreb (Salata)

所在地　Salata 2-4　　電話　01-2388-888

・オシエク：Clinical Hospital Center Osijek

所在地　J.Huttlera 4　　電話　031-511-511

・リエカ：Clinical Hospital Center Rijeka

所在地　Kresimirova 42　　電話　051-658-111

・プーラ：General Hospital Pura

所在地　Zagrebacka 30　　電話　052-376-000

・ザダル：General Hospital Zadar

所在地　Boze Pericica 5　　電話　023-505-505

・シベニク：General Hospital Sibenik

所在地　Stjepana Radica 83　　電話　022-641-641

・スプリット：Clinical Hospital Center Split

所在地　Spinciceva 1　　電話　021-556-111

・ドブロブニク：General Hospital Dubrovnik

所在地　Roka Misetica 2　　電話　020-431-777

（5）空港

・ザグレブ空港　　電話　060-320-320

・オシエク空港　　電話　031-514-440

・リエカ空港　　電話　051-842-040

・プーラ空港　　電話　060-308-308

・ザダル空港　　電話　023-205-800

・スプリット空港　　電話　021-203-507

・ドブロブニク空港　　電話　020-773-377

Ⅲ　在留邦人用緊急事態対処マニュアル

1　平素の準備と心構え

（1）在留届の提出

旅券法により、海外に住居または居所を定めて3か月以上滞在する日本人は、その住所または居所を管轄する在外公館に在留届を提出するよう義務付けられています。

在クロアチア日本国大使館では、事件、事故や思わぬ災害が発生した場合、提出していただいた在留届をもとに安否確認を行ったり、情報を提供したりしますので、在留届の住所や連絡先に変更がある場合や国外へ転居する際には、必ず連絡してください。

（2）連絡体制の整備

あらかじめ、会社、学校や家庭において、緊急連絡先リストや相互の連絡方法について決めておいてください。

（3）避難場所の検討

一時的に避難する場所や、最終的に避難する場所について、どこで（勤務先、通勤途上、自宅等）、どのような事態に巻き込まれそうか、幾つかのケースを想定・検討して、家族や同僚と情報共有しておくことが重要です。

（4）携行品および非常用物資の準備

非常食、飲料水、防寒着、ラジオ、懐中電灯などを各自で準備しておくことが大切です。思わぬ災害等が発生すると、飲食物が真っ先に不足することが予想されますので、最低3日分（できれば1週間分）の食料、飲料水を準備し、直ぐに持ち出したり、使用できる状態にしておく必要があります。

資料2「緊急事態に備えてのチェックリスト」もご参照ください。

2　緊急時の行動

（1）基本的心構え

平静を保ち、流言飛語に惑わされたり、群集心理に巻き込まれることのないよう注意してください。

まずは、周囲の状況をよく確認し、自分の置かれた状態を把握したうえで、自主的に避難することが可能か、救助が必要かなどを判断してください。

（2）情報収集

テレビ、ラジオ、インターネット等、あらゆる手段を活用して情報を収集し、状況を把握することが大切です。

NHK の短波放送の放送時間帯や周波数等については、以下に掲載されています。

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/radio/howto/

(3) 在クロアチア日本国大使館への通報

在クロアチア大使館は、事件、事故や思わぬ災害が発生した場合、在留届をもとに安否確認を行うとともに、現場の状況や他の日本人の方に関する情報等を収集します。これらの情報に触れた場合には、断片的なものでも結構ですので、在クロアチア大使館へ一報をお願いいたします。

(4) 国外への退避

ア　ご自身の判断により、クロアチアから国外に退避する場合には、その旨在クロアチア大使館まで連絡してください。

イ　「退避勧告」が発出された場合、可能な限り、商用便が運行している間に、速やかに出国してください。臨時便やチャーター便が手配される場合には、その指示に従ってください。退避または避難のための集合の案内があった場合には、その指示に従ってください。

資料 1

緊急時のクロアチア語

○　助けて！！　「ウ　ポモチ！！」（U pomoc）

○　泥棒！！　「ロポヴ！！」　（Lopov）

○　警察を呼んで！！　「ゾヴィテ　ポリツィユ！！」（Zovite policiju）

○　救急車を呼んで！！　「ゾヴィテ　ヒットヌ！！」（Zovite hitnu）

○　日本国大使館に連絡してください。
「モジェテ リ ナズヴァティ ヴェレポスランストヴォ　ヤパナ」
(Možete li nazvati velepostanstvo Japana?)

○　お金を盗まれました。　「ウクラデン　ミ　イェ　ノヴァッツ」
（Ukraden mi je novac）

○　パスポートを盗まれました。　「ウクラデナ　ミ　イェ　プトヴニッツァ」
（Ukradena mi je putovnica)

○　パスポートをなくしました。
・（男性）「イズグビオ　サム　プトヴニッツ」（Izgubio sam putovnicu)
・（女性）「イズグビラ　サム　プトヴニッツ」（Izgubila sam putovnicu）

○　電話を貸してもらえますか。「モグ リ セ ポスルジティ テレフォノム」
（Mogu li se poslužiti telefonom?)

○　私は日本人です。
・（男性）　「ヤー　サム　ヤパナッツ」（Ja sam Japanac）
・（女性）　「ヤー　サム　ヤパンカ」　（Ja sam Japanka)

資料 2

緊急事態に備えてのチェックリスト

□　旅券等

①　常時 6 か月以上の残存期間があることの確認。旅券の最終項「所持人記載欄」の記載。血液型（RH+か-）の記入も行ってください。

②　当国における外国人登録証明書、滞在許可証等の確認。

□　現金、貴金属、預金通帳等の有価証券、クレジットカード

これらの物品が緊急時にすぐ持ち出せるよう整理・保管してください。

□　自動車の整備等

①　自動車の常時整備

②　燃料の常時補給

③　車内への常時懐中電灯、三角非常停止板、救急箱、予備タイヤ、反射胴衣、地図、ティッシュ等の具備

□　携行品の準備　～避難場所に避難する際の携行品

①　衣類（長袖上衣、長ズボン）、下着

②　履き物（行動に便利で、靴底の厚い頑丈なもの）

③　洗面用具（タオル、歯磨きセット、石鹸等）

④　非常用食料（米、レトルト食品、ビスケット、チョコレート、クラッカー、飲料水等：最低 3 日分）

⑤　常備薬、救急用品（感染症対策として、マスク、ウェットティッシュ、手指消毒用アルコール、体温計も）

⑤　ラジオ（短波放送が受信できるもの。電池入り）

⑥　その他

懐中電灯、予備バッテリー、ライター、ロウソク、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製食器、カトラリー（フォーク、スプーン、割り箸等）、固形燃料、ヘルメット・防災頭巾（応急用にはクッションで代用）、雨具

□　備蓄品

①　食料および飲料水（最低 3 日分。できれば 1 週間分）×　家族分

※　保存期間が長いものを多めに買っておき、消費したら補充することを習慣にしておけば、常に食料の備蓄ができます。

②　生活用品

※　ティッシュ、ウェットティッシュ、トイレットペーパー、ラップ、ゴミ袋等